

「 美 術 I 」 シラバス

学科	みらい創造工学科	学年	1 年	類型		組	6 組	単位数	2
使用教科書	高校生の美術 1（日本文教出版）								
副教材等									

1 学習の到達目標

- ① 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表すことができる。
- ② 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする。
- ③ 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組むことができる。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期の学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表しているか。	(1) (2) (3) (4) (5) (7)
思考・判断・表現	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしているか。	(1) (3) (4) (5) (6) (7)
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	(1) (2) (3) (4) (6) (7) (8)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1) 授業態度 (2) 作品や道具等の扱い方 (3) 制作過程 (4) 計画的な行動及び調整力	
作品や学習プリント	(5) 作品の完成度 (6) 自己の経験や思いを生かした独創的な表現 (7) 発言内容及び記述内容	
作品や課題の提出状況	(8) 提出期限の厳守	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	オリエンテーション 「美術とは何か」	・ 見方や感じ方は人それぞれ違い、自由であることを理解する。 ・ 多様で変化の大きい社会の中で、美術の持つ可能性に気づき、高校生として美術を学習する準備をする。	(1) (7)
	「身近なものを描く」	・ 鉛筆を画材として再考し、多様な表現活動をとおして鉛筆でできる表現を追求する。	(2) (6)
	鑑賞（新海 誠）	・ 作品に込められた作者の思いやこだわりを見つけ、自己表現の良さやおもしろさを感じ取る。	(7)
	「アクリル絵の具の可能性」	・ アクリル絵の具の特徴を理解し、色や筆遣いの工夫による幅広い表現方法を身に付ける。	(2) (3) (4) (5)
	「版で表す」	・ 版の種類や特徴、伝統文様などを参考に、オリジナルのゴム印で身近なものを彩る。	(2) (4) (6)
二 学 期	「立体表現の魅力」	・ モデリングとカービングの違いを理解し表現に生かす。 ・ 粘土による立体的な表現の可能性について、実践を重ねて自分なりに追求する。 ・ レリーフ作品の制作をとおして生活を豊かにするアートや空間に溶け込む防災グッズの在り方を考える。	(1) (3) (4) (6) (5) (6) (7)
	鑑賞（アントニ・ガウディ）	・ ガウディの手がけた建造物の鑑賞から立体の持つ空間美や機能性、良さを感じ取る。	(7)
三 学 期	「日本美術」 「浮世絵版画の魅力」	・ 判じ絵の作品に触れ読み解くことで、江戸時代の庶民の文化や生活、現代にも通じる遊び心を感じ取る。 ・ 判じ絵の基本的な構造やルールを理解し自分で作り出すことで、既存の文化や技術を発展させたり新しい視点で見つめ直したりする力を身に付ける。	(1) (7) (4) (6)
	「アニメーションの手法」	・ 静止画を使ってピクシレーションに取り組み、アニメーションの原理や表現の特徴を理解する。	(2) (5)

備考 (1) (2) (3) (4) (7) (8)については、全ての単元において評価項目として用いる。